

町指定文化財(書跡)

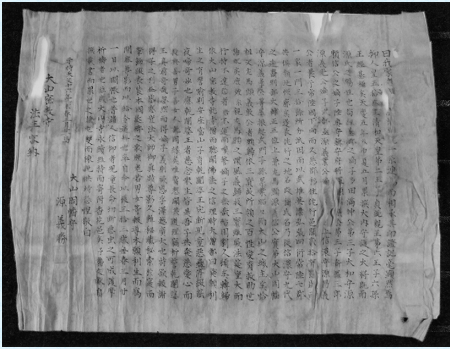
おおやまよしかつさいしよ

「大山義勝載書」

指定年月日/昭和四八年一月二〇日  
所在地/城里町高根 管理・所有者/大山寺

町指定文化財「大山義勝載書」は、大山氏八代当主大山義勝(義景)が嫡子(家督を継ぐべき男子)誕生を感謝して、天文一六(一五四七)年に大山寺に奉納した載書(盟約書)で、縦三九センチメートル、横五一センチメートルの和紙に、六四七文字の文章が漢文で記されています。

その内容は、初めに、平安中期に起こった清和源氏の祖源経基から、佐竹氏初代源昌義に至る



源氏の系譜を述べ、さらに佐竹氏一代義信(義宣)の実弟義孝が大山氏を名乗り、初代の大山城主となったことを記しています。

続いて、嫡子に恵まれなかった義勝が、大山寺大僧都の勧めにより同寺に安置される子育ての乾園婆王に祈ったところ、忽ち嫡子義則が誕生したことを述べています。

そして最後には、その御利益に感謝し、大山寺に秘蔵されてきた弘法大師自筆の乾園婆王図を表装し、領内の人々の信仰のため三三三のごとに開帳すること、大山寺に寄付を行うことなどを盟約しています。

大山氏は、義勝の載書から四八年後の文禄四(一五九五)年、九代義則の時代に小高(行方市)に移りますが、間もなく宗家である佐竹氏とともに秋田へ国替となりました。

義勝の載書が残る大山寺は、「虫封じの高根山」として現在も広く信仰されています。

解説文/町文化財保護審議会会長 小山映一

問合せ 教育委員会事務局  
☎029-288-3135

俳句

白き鷺脚不揃ひに飛び立てり  
鯉淵 寿美恵  
在りし日の亡夫との会話遠花火  
今瀬 多代美  
晩夏光高々と聞く鶯の笛  
森 静江  
白南風や廻る山頂レストラン  
綿引 英子  
空青し早稲の香りの風吹ける  
仲田 まちゑ  
名水の村一つ消え夏の果て  
飯村 昭子

盆帰省声も気持ちも皆同じ  
中野 千賀子  
冷素麺夜釣りに行つてしまひけり  
竹内 幸子  
花合歡の道へかぶさり停留所  
瀬谷 博子  
デイ点呼机上の桔梗濃紫  
岩下 金司  
万緑や湖の彼方に湖ひかり  
田口 勝元  
わが耳にみんみん蟬の鳴き止まず  
寺門 孝子

川柳

歳をとりいつしか実権婆さんに  
富田 多蔵  
提灯に亡き父母しのぶ盆の宵  
車田 綾子  
これからは茨城弁が標準語  
飯村 孝一  
秋立つと里山の虫鳴き知らせ  
川原 清



文芸しろさと

短歌

稀勢の里大逆転の優勝を果して嬉し今日のテレビに  
所 美恵子  
生きるには食べねばならず献立はバランス食を作りて暮らす  
山形 式妙  
水色の丘に誘はれネモフィラの花にいだかれしばしのくつろぎ  
杉山 みちこ  
小さき花に小さき風ありて揺らしゆく雪の下の白き花群あたり  
渡辺 千紗子  
草採りに汗していどむ真夏日の吹き来る涼風に救われし吾  
大森 久子

さ庭辺の山ぼうしの木悠然と花はほの白く暮れ残りゐる  
青柳 京子  
咲きたわむビンクの花群れ百日紅夕日に輝りてシヤンデリアのごと  
枝 不美

幼き日吾を愛でにし女逝きて遺影の笑顔に涙流しぬ  
島 愛子  
絵手紙で暑中見舞を何十枚宛名書きつ、面影うかぶ  
信田 育子

夏まつり老いも幼も参加して屋台のおどりやまき餅もあり  
坪井 きよ子  
スイカ植え伸びたる子蔓孫蔓の葉陰探せば実の数多あり  
萩谷 登喜子

大人びた言葉で笑わせ小四の女孫は帰りゆくも残り残して  
富田 佐智子  
認知症検査ドキドキ胸の中免許更新自動車教習所  
菌部 光子  
子宝と昔の格言そのままに孫の背中に元気をもらおう  
富田 欽子

